

	開催年月日	研究会又は招待講演	演者		話題提供	演者		その他・連絡会
			所属	氏名		所属	氏名	
第 1回	1972年3月15日	初会合(国立がんセンター)						
第 2回	1972年4月18日	CCNU及びFT207説明			事務局組織・会の名称決定 判定基準・記録用紙検討			
第 3回	1972年5月16日	サイクロシチジンを巡って	がんセンター	坂井保信	効果判定・記録カードについての討議 研究対象の抗癌剤FT207(コントロールMMC・UK・DS)			
第 4回	1972年6月20日	共同研究による肺癌治療の成績	東一	武正勇三	FT207配布 判定表の検討 食道癌の判定基準(栗原・長田案)			
		感染症を疑った悪性リンパ腫	順天堂大	栗原 稔				
第 5回	1972年7月18日				判定基準訂正, 判定表の使い方, 5FUのtrial, 集計当番の決め方, 等につき討議			
第 6回	1972年9月19日	癌の免疫	癌研	石井	治験担当者 FT207 日大板橋・立川共済・山梨中央病院 MMC-UK-DS 川崎市立井田・埼玉中央・順大附 属病院 抗癌剤(FT及びUKの使用量について)			
		癌の免疫療法	がんセンター	田中富子				
第 7回	1972年10月17日	皮膚癌のVirotherapy	がんセンター	石原和之	FT207と糖尿について 5FU内服の検討			
第 8回	1972年11月21日	5FU経口投与方法 症例 足利日赤・埼玉中央	川崎市立井田	中津喬義	FT・MMC-UK-DSの中間報告 次回治験を5FUとする 抗癌剤の使用基準 ～前治療と1ヶ月以上間隔をおくことについて～			
第 9回	1972年12月19日	腸管内視鏡(大腸・小腸)の現況	平塚胃腸病院	平塚秀雄	FT207治験中間報告(治験終了を2月までとする) 5FU経口投与の効果・副作用・文献について 記録用紙の検討			
		癌化学療法の病理	癌センター病理	下里幸雄				
第 10回	1973年1月16日	犬の実験癌	順大	栗原 稔	治験について(FT207終了, 5FU3月開始) 治療中止のメド(骨髄抑制の程度との関連について, 木村) 治療の維持(白血病治療の方式を固形癌の治療に対 応すること, 木村)について			
		抗癌剤の生体内機構	がんセンター	樽谷				
第 11回	1973年2月20日	CCNUについて	千葉がんセンター	馬島 尚	症例報告(中央鉄道、山梨県立中央) 5FU経口投与時血中濃度 投与法の検討(300~400mg/Hとする)			
第 12回	1973年3月20日	BLMの基礎的研究及び投与方法	千葉放医研	渡辺	5FU経口投与時血中濃度の実験(藤田) 症例報告(山梨県立中央、足利日赤、埼玉中央)			
第 13回	1973年4月18日	微生物を用いた発癌物質のscreening	がんセンター	長尾美奈子				
第 14回	1973年5月15日	immuneRNAIによる癌の免疫療法と 抗癌剤の免疫抑制作用	浜松医療センター・ 名大	大野竜三	FT207治験成績中間報告	立川共済	内藤敏徳	1972年度決算報告 (国立東一 武正勇三)
					東京がん化学療法研究会治験薬取扱規約案の討議・ 決定			

第 15回	1973年6月19日	癌化学療法におけるCollateral Sensitivityをめぐる諸課題	癌研化学療法部	塚越 茂	5FU治験のまとめ当番(中津喬義, 川崎市立井田・足利日赤・東京警察とする) FT207の第11回癌治療学会に演題申込について)			
第 16回	1973年7月17日				5FU経口投与症例中間報告	川崎市立井田	中津喬義	納涼会
第 17回	1973年9月18日	共同研究によるFT207経口投与の臨床成績	立川共済	内藤敏徳	次回共同研究(ガルバジルキノン・アドリアマイシン何れかを候補とする) 記録用紙改訂について			
第 18回	1973年10月16日	一般の癌に対するAdriamycinの効果	新潟がんセンター	原 義雄	記録用紙改訂について			
		悪性リンパ腫に対するアドリアマイシンの効果	がんセンター	下山				
第 19回	1973年11月20日	Carbazilquinon について	三共	荒川	集計用紙について 次回共同研究対象はカルバジルキノン(CQ)とする			
第 20回	1973年12月18日	MMC-UK-DS中間報告	埼玉中央	樋口公明	CQ使用基準 対象は白血病を除く悪性腫瘍 0.02mg/kg連日静注, 0.06mg/kg週2回点滴, 0.12mg/kg週1回点滴 を順番に投与する 総量18mg以上使用を目標とする			忘年会(地下グルリコーワ)
第 21回	1974年2月19日	米国におけるスクリーニング・システムとPhase I 症例報告	中央鉄道	長田 浩	CQ担当者 高橋秀夫(大森日赤)長田 浩(中央鉄道)に決定			
		Studyの現状	日米化学療法センター	星野 章				
第 22回	1974年3月19日	BCGによる癌の免疫療法—特に菌体成分について	川崎市立井田	中津喬義				
		5FU中間報告	阪大3内	山村雄一				
第 23回	1974年5月21日	胃癌の化学療法	広島大原医研	服部孝雄	第22回化学療法学会(6月28日)発表者 FT207 内山照雄(日大板橋)・内藤(立川共済)・渡辺(山梨県立) 5FU経口 中津(川崎市立井田)・鈴木(東京警察)・服部 MMC-UK-DOS 樋口公明(埼玉中央)・栗原(順大)・中津(井田) 効果判定基準 長径+短径の長さで判定 著効≥90% 有効≥50% やや有効≥25% 無効A<25% 無効B不変・増悪とする			1973年度決算報告 (国立東一, 武正勇三)
第 24回	1974年6月18日	癌治療学会発表予行演習			次回共同研究の対象について Adriamycin・FT-207座薬・ACNUを候補とする 前治療無効例のwash out間隔について 2週あれば可とする 発表時の所属表示 施設名(科名)を原則とするが希望により科名は省略しても良いこととする			
		共同研究による5FU経口投与の臨床成績		中津喬義				
		共同研究によるFT207経口投与の臨床成績		内山照雄				
		共同研究によるMMC+UK併用投与の臨床成績		樋口公明				

第 25回	1974年7月16日	制癌性抗生物質と癌化学療法		梅沢浜夫					納涼会(地下グリラコーワ)
第 26回	1974年9月17日	FT207の治験報告	がんセンター内科	近田千尋	次回研究の共同対象はFT207座薬とする				
第 27回	1974年10月15日	ヌクレオシド系抗癌剤の展望	北大 薬理	実吉峯郎	英文の会の名称 Tokyo Cancer Chemotherapy-Co-operative Study Groupとする				
		OK432をめぐる問題	癌研	古江 尚					
第 28回	1974年11月19日	リンパ細胞の新しい分類基準	がんセンター研究所	天野 実					
第 29回	1974年12月17日				アドリアマイシンの治験 1975年2月から開始するCQの治験集計について 期間を半年延長することとする				
第 30回	1975年1月21日	国際がん会議見聞記		古江 尚 中津喬義 木村禧代二					新年会(築地スエヒロ)
第 31回	1975年2月18日	新抗癌剤ACNUのPreclinical study	三共 中央研究所	荒川順三	FT座薬集計担当(加藤量平・桐生厚生)	日赤医療センター	花岡正義		
		ACNUのPhase I study	がんセンター	坂井信保	学会発表 CQ研究会(2/26 経団連会館)	大森日赤	高橋		
第 32回	1975年3月18日	培養ヒト細胞の生物学的検討	新潟大病理	大星章一	アドリアマイシンの治験について(6月開始予定)				
第 33回	1975年4月15日	地理病理疫学から見た世界の癌	がんセンター	平山 雄	ADM使用方法 ①40mg day1,day2 ②10mg連日8日の2法とし、クール間に3週以上の間隔を置いて繰り返すこととする				
第 34回	1975年5月20日	HLAの臨床応用	東大血清輸血部	十字猛夫					
第 35回	1975年6月17日	Cyclophosphamideの関連活性物質(新抗癌剤について)	塩野義研究所	藤沢圭吾					
第 36回	1975年7月15日				次回治験 ACNU・CQ内服・OK432と抗癌剤の何れかとする。				
(1975年8月8日)									CQ,FT座薬集計(東急ホテル)
第 37回	1975年9月16日	ACNUのPhase I studyの治験成績	がんセンター	坂野	共同研究によるCQの臨床成績	国鉄病院	長田 浩		
					FT座薬69例の中間報告				
					次回治験薬ACNUに決定				
第 38回	1975年10月21日	癌のthermo-chemotherapy	九大癌研	馬場恒夫	ACNU投与方法 3mg/kg1回又は2mg/kg連日2回を4週間隔で2クール以上とする				
第 39回	1975年11月18日	オーストラリア抗原と肺炎・肝硬変・肝癌	がんセンターウイルス部	西岡 久寿弥	ACNU+OK432併用時の投与方法について 漸増法により2KE以上の投与に至らないものは脱落例とする ツベルクリン反応は少なくとも治療前と終了時2回検査する				代表交代 木村禧代二→古江 尚
第 40回	1975年12月16日	腸上皮化生と胃癌	がんセンター研究所 生化学部	河内 卓	OK432の投与方法につて				

第 41回	1976年1月20日				アドリアマイシン発表担当 小黒(千葉がんセンター)以外は次回検討			事務局 癌研内科に変更
第 42回	1976年2月17日	人癌ウィルスの研究とその状況	千葉がんセンター	丸山 孝士	ADM発表担当者 小黒(千葉がんセンター)・浅野 哲(厚生年金)とする			規約について顧問弁護士に相談中
第 43回	1976年3月16日	癌免疫における細胞性免疫の調整機構と免疫療法のadverse effect	千大免疫研	藤本 重義				
第 44回	1976年5月18日	抗癌剤のスクリーニングと米国の新しい抗癌剤について	癌研 化学療法部	塚越 茂	英文発表時のタイトルの形式について決定			1975年度会計報告(武田 勇三、国立東一)
第 45回	1976年6月15日	T-cell, B-cellの基礎と臨床	東邦大小児科	矢田 純一	アドリアマイシンの治験成績を癌治療学会に発表する		小黒・浅野	
					症例 ACNUによる肺癌	中央鉄道病院		
					症例 ACNUによる食道癌皮膚転移の治療	駒込病院		
第 46回	1976年7月20日	動物腫瘍を用いた併用療法の研究	がんセンター研究所 薬効試験部	星 昭夫	症例 食道リンパ肉腫	埼玉中央	樋口 公明	
第 47回	1976年9月21日	KMT療法	がんセンター	竹田千里・小高	次回治験について アクリンマイシン・FD・メチルCCNU・レバミゾール・レンチン・併用療法等が話題に上った			
第 48回	1976年10月19日	ADMの東京がん化学療法研究会の集計報告	千葉がんセンター	小黒				
		アクリンマイシンの基礎と臨床	癌研	古江 尚				
		FD-1情報	鶴見女大	藤田 浩				
第 49回	1976年11月16日	Liposome-癌化学療法への応用	癌研化療センター-基礎部	小林 知雄				
第 50回	1977年1月18日	腫瘍細胞の分化	埼玉県がんセンター 化療部	穂積 本雄	BLM-MMC併用療法について	がんセンター	仁井谷 久暢	事務局移転 1月から癌研→帝京大2内(板橋)
第 51回	1977年2月15日	5FU系統の新薬(FD1, FD2, HCFU)の基礎と臨床	がんセンター	樽谷 和男	ACNU, ACNU+OK432発表者決定 服部隆延(杏雲堂)石井好明(青梅市立)			
			鶴見女子大歯学部	藤田 浩				
			千葉がんセンター	馬島 尚				
第 52回	1977年3月15日	BLMとMMC併用による末期子宮癌の化学療法の効果	放医研	宮本 忠昭				
		追加	がんセンター	仁井谷 久暢				
第 53回	1977年4月19日	CWSIによる癌の免疫療法-特に癌性胸膜炎の治療について	阪大3内	小倉 剛	次回治験薬BLM+MMCと決定			
		追加	がんセンター	西条 長宏				

第 54回	1977年5月19日	丸山ワクチン(会場 築地スエヒロ新館)	日医大	丸山 千里 藤田			
			埼玉医大	吉井			
			愛知県がんセンター	中里			
第 55回	1977年6月21日	メラノーマに対するBCG及びBCG-CWSの免疫療法	千葉県がんセンター 血液化療部	小黒 幸雄			
		追加	がんセンター	石原			
第 56回	1977年7月19日	ヌードマウスに可移植性の人癌に対する治療試験について	がんセンター	下里 幸雄	次回治験について 5FUカプセル・FD-1・HCFUの中から考える		
第 57回	1977年9月20日	話題「新抗癌剤のPhase I 臨床試験をめざして」					
		ACM	鶴見女子大	藤田			
		HCFU	がんセンター	星			
		FD-1 顆粒	帝京大	古江			
		5FU錠剤	順天堂大	栗原			
		5FUカプセル	川崎市立井田	中津			
5FUカプセル	千葉がんセンター	馬島					
第 58回	1977年11月22日	消化器癌化学療法の状況	癌研癌化学療法	小川 一誠	症例 脾臓に転移した乳癌 次回治験(5FUcap・tabを考える)	帝京大	
第 59回	1978年1月17日	「青玉・赤玉(癌患者に見られる免疫抑制物質と免疫増強物質)」	東北大細菌学	石田 名香雄	次回治験5FU錠剤・カプセルに決定		
第 60回	1978年2月21日	抗腫瘍性多糖TAK及びその他関連物質	がんセンター化学療法部	佐々木 琢磨	症例 悪性リンパ腫と肺癌の肺癌の合併した2例	埼玉中央	樋口 公明
3月は春分の日のため休会？							
第 61回	1978年4月18日	宿主条件と癌化学療法	癌研化学療法センター	塚越 茂			会計報告(古江)
第 62回	1978年5月16日	ホルモンレセプターとtumor marker	がんセンター研究所 内分泌部	阿部 薫			
第 63回	1978年6月20日	レンチナンの作用機序	味の素研究所	羽室 順爾			
第 64回	1978年7月18日	化学物質の癌原性について	国立衛生研究所病理部	小田島 成和			事務員交代 佐藤→丸山
第 65回	1978年9月19日	MTXの大量療法について	九大小児科	藤本 猛			
第 66回	1978年11月21日	(Mitogen反応から見た)癌患者免疫能	徳島大	螺良 英郎			
第 67回	1978年12月19日	抗癌剤の代謝	阪大 蛋白質研	藤井 節郎	次回治験 UFTとすることについて		
第 68回	1979年1月16日	癌死亡・罹患と宿主要因一疫学的調査より	名大予防衛生学	青木 国雄			新年会(築地スエヒロ)
第 69回	1979年2月20日	癌患者血清中の免疫抑制物質	札幌医大癌研内科	漆崎	UFTの使い方について		

第 70回	1979年3月20日	Hyperalimantationと化学療法	都立駒込	小野寺	今年の癌治学会発表予定			
					BM療法及び5FU錠剤・カプセル			
					次回治験はUFTと決定			
					プロトコール用紙変更について			
第 71回	1979年4月17日	乳癌のホルモン療法	慶大外科	阿部 令彦				事務員交代 丸山→茂木
第 72回	1979年5月15日	インターフェロンの抗腫瘍性	がんセンター整形外科	福間	症例 川崎市立井田(中津)、 鶴見女子大(藤田)5FU血中濃度 杏雲堂 子宮肺癌転移例 帝京大 肝癌に対するMFA治療例			
第 73回	1979年6月19日	癌患者のリンパ球	東邦大免疫学	新保				
第 74回	1979年7月17日	ヌードマウスと癌化学療法	阪大微研外科	田口 鐵男				
第 75回	1979年9月18日	細胞動態と癌化学療法	放医研	寺島 洋三	症例 日大板橋 BM療法の報告			
第 76回	1979年11月20日	CTによる腫瘍の診断	がんセンター	森山				
第 77回	1979年12月18日	DICの臨床	東京都老人研	松田				
1月15日は休日のため休会								
第 78回	1980年2月19日	ペプロマイシンの基礎と臨床 ー頭頸部癌を中心にー	慶大耳鼻科	犬山 征夫	BM療法中間報告 UFT中間報告			
第 79回	1980年3月18日	?						
第 80回	1980年4月15日	?	愛知県がんセンター 研究所疫学部	富永 祐民	症例 がんセンター PLM-CQによる肺癌治療症例			
第 81回	1980年5月20日	?	癌研癌化学療法	小川 一誠				
第 82回	1980年6月17日	効果判定基準について		仁井谷 久暢 栗原 稔				
第 83回	1980年7月15日	癌ならびに白血病のBCGワクチンによる免疫		Dr.Rosenthal, S.R. 米国				
9月16日は国際消化器外科学会のため休会?								
第 84回	1980年10月21日	インターフェロンの臨床試験	帝京大 がんセンター	古江 尚 石原 和之				
第 85回	1980年11月18日	難治療に対する加温治療法の臨床 経験について	京大放射線科	阿部 光幸				
第 86回	1980年12月16日	Suppressor T細胞	東大血清学	多田 富雄				
第 87回	1981年1月20日	BHAC及びAclacinomycin Aの抗腫瘍 作用	名大1内	山田 一正				
第 88回	1981年2月17日	薬剤耐性の機序	癌研化学療法部	稲葉	BHACを固形癌に併用することについて			新年会(築地スエヒロ)
		薬剤耐性の克服の試み	癌研化学療法部	鶴尾	BHACの投与量について			
					5FUの使い方について			

第 89回	1981年3月17日	日本における悪性リンパ腫	がんセンター	下山	次回治験案 ①SFSP+BHAC 対 SFSP ②MF+BHAC 対 MF ③CQ+PEP+BHAC 対 CQ+PEP			
第 90回	1981年4月21日	モノクローナル抗体の臨床応用	東大血清	奥村 康	症例 (5FU経口投与と分割照射による肺癌治療例) 次回治験 消化器の腺癌に限り、上記①・②を行う SFSP+BHAC単独のopen trialも並行して行う		中津	会計報告(渡辺 山梨県立)
第 91回	1981年5月19日	肺癌化学療法の諸問題	日医大	仁井谷 久暢	症例 embryonal ca+セミノーマ肺転移例 症例 上顎adenocystic ca 肺転移例 BHAC治験中間報告 肺癌化学療法のプロトコールについて	足利日赤	坂井 長田	
第 92回	1981年6月16日	腫瘍マーカー	がんセンター内科	大倉	化学療法学会での報告について SFSP研究会(6月27日)出席者募集の件 症例調査票について		山本	
第 93回	1981年10月20日	癌転移とその抑制	癌研	塚越 茂	局所の活性化について		藤田	会場 今回よりがんセンターを離れ、築地スエヒロに変更 3、8、12月を休会とする
第 94回	1981年11月17日	メラノーマのすべて	がんセンター	石原 和之				
第 95回	1982年1月19日	(昇圧化学療法?)						
第 96回	1982年2月16日	?						
第 97回	1982年3月16日	乳癌	都立駒込外科	富永 健	症例 大森日赤・川崎市立井田			
第 98回	1982年4月20日	肺癌の治療についてー免疫化学療法と小細胞癌の内科的治療ー	千大肺癌研	山口 豊	症例 川崎市立井田・杏雲堂			1981年度会計報告(渡辺山梨県立)
第 99回	1982年5月18日	癌の細胞診	岐阜大第一病理	高橋 正宣	症例 群馬県立がんセンター・群大病院			
第 100回	1982年6月15日	ウイルスと発癌遺伝子	東大医科研	小田 釣一郎	症例 慶大・日医大			